

遺伝子組み換えイネ  
実験中止求め  
生産者ら集会

上越市の独立行政法人  
「中央農業総合研究セン  
ター北陸研究センター」



集会では、安全性や風評被害に対する  
センター側の考えを求める質問が多く  
出た。東京都内の参院議員会館で

が計画している遺伝子組  
み換えイネの栽培実験に  
ついて、農家や消費者団  
体らが24日、東京都内で  
集会を開き、実験の中止  
を求めた。住民の理解を  
得られるまで田植えをし

ないよう要求した。だが、  
集会に出席していた  
センター側は「農水大臣  
の承認が出れば実施す  
る」と述べた。

実験は、センターが野  
菜のカラシナの遺伝子を  
導入して開発した、いも  
ち病や白葉枯病などに強  
いイネを、隔離圃場内  
の水田で育て、耐病性な  
どのデータを得るのが狙  
い。今月下旬に1回目の  
田植えをする計画だ。

集会は、有機農業を実  
践する「上越有機農業研  
究会」やNPO魚沼ゆう  
きなどが主催し、約70人  
が参加。センター職員と  
質疑を交わし、実験の中  
止を求める9146人分  
の署名を手渡した。

一方、参加者から、  
「被害が起きたら誰が責  
任を取るのか」「消費者  
の理解を得られないもの  
を作る必要はない」など

朝日新聞 5/25 (木)

と意見が相次いだ。

NPO魚沼ゆうきの山  
岸勝代表は「農水大臣の  
承認はまだ下りておら  
ず、計画の中止の可能性  
がないわけではない。引  
き続き運動していく」と  
述べた。

# 31日に田植え実行

子稲  
え換  
伝み  
組

中央農研  
北陸センター  
上越で屋外栽培

中央農業総合研究セン  
ター北陸研究センター

(上越市)は二十七日、  
耐病性のある遺伝子組み

換え稲の屋外栽培実験の  
田植えを、同センターの

試験ほ場で三十一日に行  
うことを決めた。

実験には県内農家らが  
反対しており二十七日、  
近藤正道参院議員のほ  
か、「にいがた食と農と  
健康、教育ネットワーク」  
などが同センターに実験

中止を要請。えちご上越  
農協労組の布施辰夫委  
員長は「合意形成ができ  
るまで、実験を始めない  
でほしい」などと求め  
た。

これに対して片山秀策  
センター長は「近隣の了  
解は得ている。怖いと言

って手をまねいてはい  
られない。研究者の使命  
だ」などと述べた。田植  
えは一般に公開される。  
同センターでは六月二十  
五日に再度、実験の説明  
会を開く予定。

また、上越有機農業研  
究会の呼び掛けで五月二  
十九日午後七時から、上  
越市頸城区の希望館で実  
験中止を求める会が開か  
れる。反対運動の連携、  
協力態勢を築くのが狙  
い。問い合わせは同会、  
025(547)221  
0。

新潟日報  
5/28 (土)